

これは報復処分の許せるか

解雇20名、
停職28名、
減給64名、戒告6名、
訓告1名(計119名)

全支部で即日怒りの反撃—現場長が逃げまわり、「通告」もできず



日刊 動労千葉

86. 1. 29
No. 2151

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄管)二九三五六(公衆)四七二二七二〇七

一月二十八日、国鉄当局は、わが動労千葉の十一・二八・二九ストライキに対して、解雇二十名、停職二十八名、減給六十四名、戒告六名、訓告一名の総計一一九名にも及ぶ超反動大量不当処分を通告を強行してきた。全支部・全組合員は、文字通り満身に怒りをたぎらせ、直ちに区長抗議行動・抗議集会を開催し、千葉転・津田沼・成田・幕張をはじめとする全支部の被処分者をつつみこみ、不当処分粉砕の非協力・順法闘争へ突入することを誓い合った。全組合員が打つて一丸となり、不当処分粉砕・第二波スト貫徹へ向け二九日始発・始業時より総力で決起しよう。

転 解雇7名 戒告44名 不当処分 怒りの糾弾に 区長逃げる

二八日午前十時、大量不当処分攻撃に怒りを燃やす組合員が統々と結集してきた。千葉運転区支部は、解雇七名・停職六名・減給三十一名の不当処分が発令されようとしている。

内山書記長の司会のもと開催された抗議集会で最初にあいさつにたった本部布施書記長は、この政治的・報復的不当処分を徹底的に弾劾するとともに、二九日以降、一カ月の順法闘争、山場では断固ストライキで闘う方針を明らかにした。

永田支部長は「今回の処分は断じて許せない。被処分者を守り、第二波闘争への決起で必ずや不当処分を粉碎し、十万人首切りを阻止しよう」と決意を表明した。

さらに、不当解雇を通告されたとしている桜沢本部交渉委員、加藤支部執行委員がたち、それぞれ「解雇は断じて許せない。撤回するまで闘う」との決意を明らかにした。

処分通告を行おうとする当局は、抗議集会の途中で区長を先頭に顔を出したものの、組合員のすさまじい怒りに圧倒され、すぐごと引きさがらずをえず、区長室にカギをかけて閉じこもってしまい、一人の「通告」をも行えなかったのである。十七時三十分、二九日以降の怒りの順法闘争への決起を全体で確認し、抗議行動を集約した。

津田沼 解雇8名 戒告43名 不当処分 オニ波決定で 目の前の見せつけ

津田沼支部では、解雇八名・停職三名・減給三二名の不当処分が発令されんとしていた。昼休み、組合員は怒りに燃え、区長抗議行動に決起した。「ニュースで一二〇名の処分というがいつ通告したんだ」「理由を説明して見ろ」、などなどの組合員の追及に「上の判断だ」「いずれ通告する」など全く無責任な対応しかできない当

局に怒りは高まる一方である。支部は、直ちに、二九日始発時からの抗議の順法闘争突入のオルグ・準備体制を確立するとともに、十七時三十分より、六十名の組合員の結集のもと断固抗議集会を開催した。

綾部書記長の司会のもと、山下支部長、本部吉岡教宣部長、川口乗務員分科会長、石渡検修分科会長、川崎青年部長が次々とたつて、動労千葉の組織破壊、闘う国鉄労働者の決起をおしつづすことのみを狙いとされた報復的・みせしめ的不当処分への怒りと、闘う決意を明らかにした。

続いて、不当処分通告をされんとしている椿執行委員、高橋執行委員、田中執行委員、さらに本部片岡企画部長、篠塚本部特執が次々と処分粉砕、「61・3」阻止の第二波闘争へ決起する決意を明らかにした。

集会の妨害のため、スピーカーでわめく当局の弾圧をはねのけ、全員で怒りの構内デモを貫徹し、二九日以降の闘いへの決起を誓い合った。

成田 森内支部長解雇に怒り爆発 支部ぐるみの 総決起を誓う

十二時から、六十名の組合員を集めて抗議の職場集会が開かれた。大畑副支部長の司会のもと、森内支部長は「この度、全く不当に解雇攻撃を受けたが、ひるまず、これからの線見阻止闘争の最先頭を担う。全組合員が私を信頼し、一致団結し『分割・民営化』をはじめ、諸闘争を断固闘いぬこう」と力強い決意を明らかにした。

続いて大須賀書記長より、二九日以降の不当処分粉砕闘争、二〇三月闘争への闘いの基調提起をうけ、全体の団結ガンバローで総決起を誓い合った。十二時四十分より区長抗議交渉が一時以上以上わたって行われた。区長室に閉じこもり、一切「通告」もできず、ただただ「上からの指示で」を繰り返すのみの当局に対し、激しい怒りが叩きつけられた。

抗議集会、区長交渉後、直ちに、日からの怒りの非協力・順法闘争への準備体制に突入した。